



第186期 Business Report

平成20年4月1日→平成21年3月31日

[Top interview]

株主の皆様へ／新社長・会長に聞く

[Special issue]

宇宙から見る、地球の川崎重工／
クリーンエネルギー「天然ガス」と川崎重工の技術


川崎重工業株式会社

証券コード:7012

質主量従、リスクマネジメントを徹底した事業運営で、次の成長に向け前進してまいります。


盛夏の候、株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。川崎重工グループ第186期（平成20年度）Business Reportをお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期の営業概況


川崎重工グループは、中期経営計画「Global 」で掲げたビジョン実現に向けた収益目標を、総じて計画通りに達成してきました。しかしながら、米国の金融危機に端を発する世界的景気後退により、当グループの事業運営も少なからぬ影響を受け、今年度は決算ハイライトのとおり、連結、単独共に185期（平成19年度）から減収減益となりました。配当方針につきましては、内部留保の充実に配慮しつつ、業績に見合った配当を安定的に継続することとしておりますが、総合的に勘案した結果、前期より2円減額し、1株あたり3円を配当することといたしました。

経営戦略

世界的な景気後退の中、当面の間、当グループにとっても厳しい経営環境が続くと考えられます。

このため、中期経営計画「Global 」の方針は堅持しながらも、一層事業リスクが高まることから、「質主量従」の考えと「リスクマネジメント」をより徹底した事業運営を行います。市場環境の変化を注視し、需要減退懸念のある事業については、リスク評価を厳格化し、選別受注、選別投資を徹底するとともに、損益分岐点の引き下げ、キャッシュフローの改善、バランスシートのスリム化に重点的に取り組みます。一方、エネルギー・環境事業などの成長分野や、将来のグループ技術基盤形成に不可欠な研究開発への資源投入は計画通りに実施します。また、重点市場への戦略投資についても、対象の選択、資源投入量や速度などを十分考慮しながら継続していきます。建設機械、汎用機、ロボット、油圧機器の量産部門については、更なる市場の悪化懸念もありますが、将来に向けたコア基盤技術の維持とのバランスを図りながら損益分岐点の引き下げに注力するとともに、市場動向を注視し、環境の変化に機動的に対応していきます。量産部門以外については、当面の安定した仕事量を確保していますが、生産性の向上、コストダウンを強力に推進し、収益力の向上に努めます。

以上の方針・戦略の下、個別事業については、次の施策を展開することにより、収益力の向上を図ることとしています。

- ① 車両事業：北米プロジェクトなど豊富な受注残を抱える中、国内・北米・アジア三大市場での事業運営体制の強化
- ② 航空宇宙事業：次期固定翼哨戒機の量産対応、次期輸送機開発の完遂、ボーイング787量産対応などの大型プロジェクトの推進
- ③ ガスタービン・機械事業：民需航空機用ジェットエンジンの新機種開発の推進、産業用ガスタービン・高効率ガスエンジンなどの新製品・新機種開発の推進によるエネルギー・環境分野の強化、全般にわたる生産性向上による競争力強化
- ④ 汎用機事業：世界的景気後退の逆風下において、最重点事業としての先進国向けモーターサイクルの収益性向上、製品競争力向上のためグローバルレベルでの開発・生産体制の強化
- ⑤ プラント・環境事業：子会社であるカワサキプラントシステムズを母体として、中期経営計画「Global 」に掲げた「エネルギー・環境関連事業」の育成を加速
- ⑥ 船舶事業：中国事業を含めた川崎造船グループでの最適生産体制の強化など、今後の新規受注を見据えた収益改善の足固め
- ⑦ 油圧機器事業：損益分岐点の引き下げを行いつつ機動的な経営資源の投資、世界5極体制（日米欧中韓）の強化
- ⑧ ロボット事業：開発力強化、新規顧客の開拓
- ⑨ 建設機械事業：日立建機、TCMとの事業提携による開発・販売力の強化

コンプライアンス（法令遵守）

以上のような事業活動を行う上で、コンプライアンス（法令遵守）が大前提となることはいうまでもありません。当グループは、企業倫理に関する社内規則を整備した上で、階層別教育の実施、各種ガイドブックの配付、各組織でのコンプライアンス委員会の設置など、遵守すべき各種法令等の内容について周知徹底を図っています。また、本社並びに

各事業部門の担当部門を中心に、コンプライアンスの徹底に組織的に取り組むとともに、常に情報開示と透明性を最優先する企業風土の確立に努めています。

当グループは、このように事業全般にわたって、収益力を強化し、コンプライアンスを徹底することで、「世界の人人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」を目指し、企業価値の向上に取り組んでまいり所存でありますので、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年6月



はせがわ さとし
取締役社長 **長谷川 聡**

おおし ただはる
取締役会長 **大橋 忠晴**

「豊かな生活と地球環境との調和」を図るために

第186期定時株主総会終了後に開催した取締役会において、長谷川聡が川崎重工業の第14代の社長に就任しました。大橋会長（前社長）とともに、今後の抱負、当社の将来像などを聞きました。

適材・適所の布陣で思い切った改革を

新たな枠組みの世界経済に対応して、次の成長につなげてもらいたい。

— 長谷川社長を新社長に指名した理由を聞かせてください。
大橋 長谷川新社長は、ガスタービン・航空機用エンジンの設計開発分野のエンジニアとして長年の経験を有し、当社のガスタービン・航空機用エンジン事業の発展を担ってきた人物です。過去4年間、経営者としての彼を見ていて、リーダーとして必要な、事業に対する強い愛着と執着心、判断のバランスの良さ、優れた国際的ビジネス感覚を兼ね備えていることから、新社長に指名しました。

— 長谷川社長に何を期待しますか？

大橋 当社は2007年度まで4期連続の増収増益を達成しましたが、これは中期経営計画「Global ■◀」の下、長期的展望に立って事業活動を展開してきた成果だと思えます。しかし、昨年10月からの世界経済の急変により、当社も事業計画の見直しを余儀なくされる局面にあります。この経済危機をきっかけとして、世界経済がこれまでの米国中心の枠組みとは違った、次世代のステージへ移行していくことが予想される中、中期経営計画「Global ■◀」の企業ビジョンへ到達する道筋についても修正せざるを得ません。長谷川新社長には、「収益力の高いグローバル企業」への飛躍を目指して、危機の次に来る新たな枠組みの世界経済に対応できるよう、「適材・適所」の布陣で思い切った改革を進め、次の成長につなげてもらいたいと考えます。

— 社長としての決意を聞かせてください。

長谷川 企業が成長し続けることが、株主様をはじめとする、ステークホルダーの皆様にとって、最も重要なことであり、この成長の源泉として、収益力を高めることが求められていると考えています。「Global ■◀」の下、収益力は着実に向上してきていると認識していますが、事業環境は常に変化しており、環境変化に速やかに対応できるよう、手綱を引き締め、経営したいと思えます。昨年末からの環境変化への対応はすでに着手しており、当面はこれを愚直にフォローしたいと思っています。一方、「成長への投資」という面では、長期的視点で運営していきます。2007年5月制定の当社ミッションステートメントの最上位には、当社グループが果たす社会的使命として、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」が明記されています。混迷する世界情勢にある今こそ、当社グループの羅針盤であるこのミッションステートメントを見据え、グループ力を結集させ、社会的使命達成と企業価値向上に最善を尽くしたいと考えております。

— ご自身の経歴および、思い出に残るプロジェクトなどについて聞かせてください。

長谷川 航空機用ジェットエンジンV2500事業に携わって感じたことですが、開始時には大変困難を極めた本事業も、20年を経た今日、収益の柱に育ってきています。この20年に渡って、同じ人物がヒーローとして存在し続けたわけではありません。大事なことは、組織として執着心を持ち、事業を成し遂げるという意味を持ち続けることだ、とこのプロジェクトで学びました。こういう組織風土を当社グループ全体で醸成させていくことで、企業の成長を促進したいと考えます。

— 今後当社がどのように成長していくか、それぞれの思いを聞かせてください。

大橋 当社は、これまで長年にわたり輸送用機器を中心に事業を展開してきましたが、その後インフラ整備・産業機械分野にも進出、そして他社に先駆けてエネルギー・環境分野に参入しました。世紀を超えて企業が生き残っていくためには、事業のシフトは不可欠です。今後も恐れずに改革を継続し、次の事業ステージのビジョンを持っておくことが大切であると感じています。

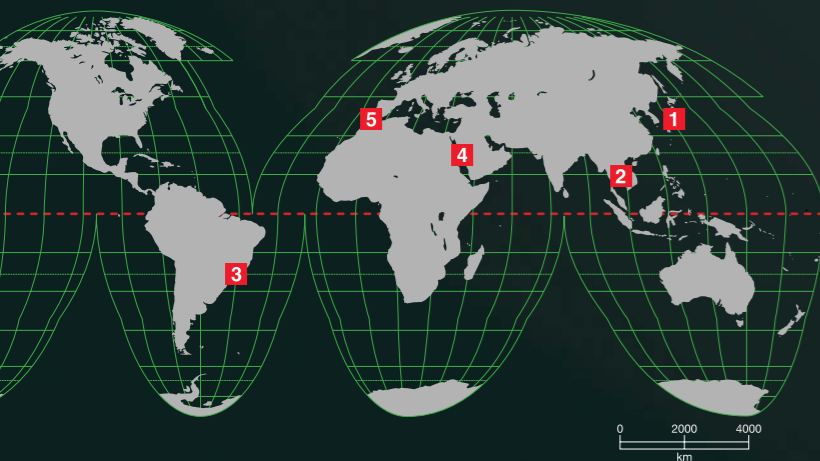
長谷川 グループミッションで「世界の人々の豊かな生活～」と掲げていますが、世界は単一の市場ではなく、「豊かな生活」というニーズも、日本に比べはるかに多様であり、世界で成長するためには、一層「マーケットイン」が求められると考えます。また、「豊かさ」と地球環境との調和」を図るため、従来の事業分野に加え、エネルギー・環境分野において、高度な技術力で貢献していくことが当社の使命であり、その実現のために執着心を持ってこれに当たります。

社会的使命達成と企業価値向上に最善を尽くしたい

収益力の向上を図ることで、次の成長に向け、投資を続けていきます。

宇宙から見る、地球の川崎重工

世界中の人々の暮らしに貢献すること。
地球環境の未来を守り続けること。
その誠実な歩みが、大地に残した足跡を、
今、宇宙空間から見るができます。



世界各地に広がる川崎重工のプラント

高い技術力を持った川崎重工は、エネルギー・環境、産業インフラの各分野において、世界各地で活躍しています。



新エネルギー開発に寄与する 坂出LNGタンク

2006年、坂出LNG株式会社殿より四国初となる大型LNG基地をフルターンキーで受注しました。日本最大級の18万kℓPC外槽式LNGタンクで、現在順調に工事が進んでおり、2010年3月末には完成・引渡しを迎えます。



東南アジア発展へのハブ空港 タイ 新バンコク国際空港向けBHS

タイ バンコクに建設された新国際空港(スワンブーム空港)は年間乗降客45百万人のアジア地域最大規模の空港です。当社はこの空港に最新鋭の手荷物搬送設備(Baggage Handling System)を納入しました。



排熱からのエネルギー回収により省エネに寄与する ブラジルSOL社向けコークス炉ガス排熱回収発電設備

コークス炉より発生する高温排ガスから排熱回収ボイラで高圧高温蒸気を生成し、これを蒸気タービンで電気エネルギーに変換して回収します。ボイラを出た低温排ガスは、脱硫装置とバグフィルタによってクリーンガスとして大気に排出されます。



地球環境保護への貢献 サウジアラビア ラビーン社向け排煙脱硫プラント

サウジアラビア初の石灰石-石膏法排煙脱硫装置で、世界最大級の石油精製プラントに電力、水、蒸気を供給するため、重油焚ボイラ9缶に対し排煙脱硫装置を3基設置、2008年10月に引渡しを終え、順調に稼働し地球環境に貢献しています。



産業振興と生活向上へ モロッコ ラファージュ社向け2300t/dセメントプラント

世界第1位のセメント会社であるラファージュ社のモロッコ・テトアン工場にセメントプラントを納入しました。その稼働率はラファージュ社内でも一番の好成績を挙げ、それが認められた結果、第2号のセメントプラントも受注することができ、現在完成に向けて工事中です。

クリーンエネルギー「天然ガス」と川崎重工の技術

当社の製品は、クリーンエネルギーLNGの採掘から運搬・受入・貯蔵、そして効率的な利用に至るまで、各シーンで活躍し、世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献しています。

天然ガスは、世界各地に分布し、豊富な埋蔵量が確認されていることから、安定供給が可能な一次エネルギーとして、わが国でも、利用の拡大がなされてきました。また天然ガスは、燃焼時にCO₂（二酸化炭素）やNO_x（窒素酸化物）、SO_x（硫黄酸化物）の発生が少ないクリーンエネルギーとして注目され、地球温暖化防止の観点からも、天然ガスへの期待はますます高まっています。

当社は、日本で初めてLNG（液化天然ガス）運搬船を建造し、天然ガスの採掘から受入基地の建設や、その効率的な利用を追求したコージェネレーションシステムの開発など、一連の天然ガス関連技術を通じて、人々の豊かな暮らしと産業の発展、そして、地球環境への負荷低減にも貢献しています。

LNGによる天然ガスの利用は、エネルギー需要の増加、環境低負荷エネルギーへのシフト、パイプラインによる天然ガス供給リスクの回避対策などの理由により拡大し、世界的にLNGの需要が高まっています。オイルメジャー、わが国の商社、資源会社などが天然ガスの新たな採掘とLNG液化基地の建設計画を積極的に進めつつあり、これに伴ってLNG運搬船の建造やLNG受入基地の建設が促進されるものと期待され、当社もこれらの受注活動を積極的に行って参ります。

① 天然ガスの採掘

天然ガス田で採掘された天然ガスは、海底に敷設されたパイプラインを通して陸上の液化基地へと移送されます。このとき、移送のために、天然ガスの圧力を高める装置（ガスコンプレッションモジュール）が必要です。当社は、1980年にわが国で初めて製作し、以来、世界の天然ガスの採掘をサポートし、これまでの納入実績は合計51基（2009年3月現在）となっています。



ガスコンプレッションモジュール

② LNGの運搬

液化した天然ガス（LNG）は、専用のタンクを搭載したLNG運搬船に積み込まれ、運搬されます。-162℃の大量のLNGを安全に、より効率的に運搬するためには、さまざまな高度な技術が必要となります。そこには、1981年、わが国で初めてLNG運搬船を建造した当社の貴重なノウハウと実績が凝縮されています。



LNG運搬船

④ 天然ガスの高効率利用

天然ガスは、日本国内で約7割が発電に利用されています。当社は、天然ガスの高効率利用を目指し、ガスタービンコージェネレーションシステムやコンバインドサイクル発電設備を開発し、国内だけでなく世界各地に納入しています。



コンバインドサイクル発電設備



グリーンガスエンジン

ガスエンジン

90年にわたるディーゼルエンジンの開発・製造の経験の元に、世界最高の発電効率と環境性能をもつ「カワサキグリーンガスエンジン」を開発しました。

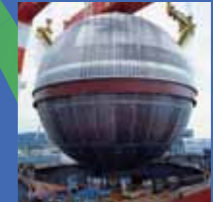


③ LNGの受入・貯蔵

LNG運搬船によって受入基地に運ばれてきたLNGは、基地内のLNGタンクに一旦貯蔵されます。当社は、陸上LNGタンクの研究・開発にいち早く取り組み、これまでに国内外で26基（2009年3月現在）のLNGタンクを建設してきました。最近では、LNG基地一式の建設工事にも対応しています。現在は、2010年運用開始に向けて坂出LNG株式会社殿向けの受入・貯蔵・払出設備を建設中です。



LNG基地



アルミ合金製球形タンク

高断熱アルミ合金製球形タンク

LNG運搬船のタンクは、-162℃という極低温に耐える素材や十分な強度を持つ構造に加え、温度上昇によるLNGの蒸発損失を抑えるため、極めて高度な断熱性が求められます。当社は、タンクの素材として極低温に強いアルミ合金を採用し、構造上の強度が最も高い球形のタンクを製造し、また、当社が独自に開発した高性能断熱パネル（川崎パネルシステム）を利用することによって、LNGの蒸発量が0.10%/日という世界最高レベルの性能を発揮しています。

[Financial highlights]

複数の事業で
減収・減益

当連結会計年度におけるわが国経済は、第3四半期にドル・ユーロをはじめとする各通貨に対して急激な円高が進み、個人消費の落ち込みや設備投資の減少、輸出の鈍化、雇用情勢の悪化など急速な後退局面を迎えました。その後、期末近くにかけて底打ちの兆しがあるものの、依然として低調な局面のままにあります。また、世界経済においても、新興国も含め、世界的に景気の後退・減速の状況が明らかになっています。このような経営環境の下、当社グループにおいても、遺憾ながら複数の事業で減収・減益となりました。

なお、配当金につきましては、業績に応じた配当を安定的に継続することを基本方針としており、今期は1株あたり3円を配当いたします。

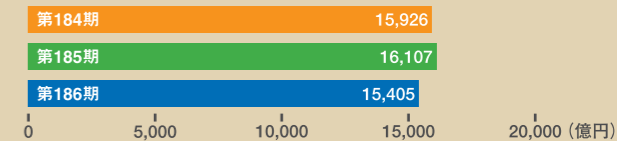
決算ハイライト(連結)



受注高 **15,405** 億円

前年度より701億円減少

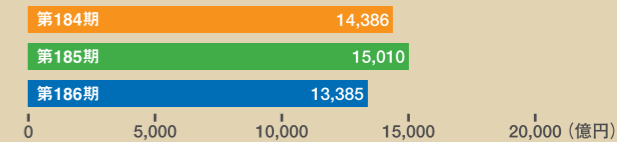
ガスタービン・機械、車両、航空宇宙事業が増加しましたが、船舶、汎用機事業などを中心に減少しました。



売上高 **13,385** 億円

前年度より1,625億円減少

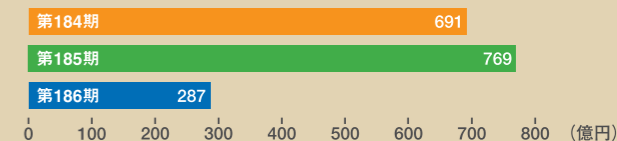
車両、ガスタービン・機械事業などで増加しましたが、汎用機事業を中心に減少しました。



営業利益 **287** 億円

前年度より481億円減少

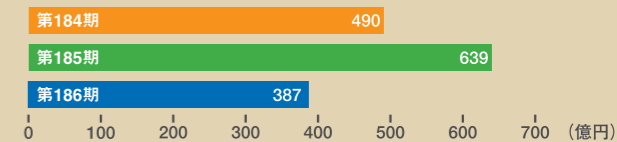
売上高の減少に加え、ドル・ユーロなどに対する円高傾向での推移、資材費の高止まりや棚卸資産評価損などの影響により、多くの事業が減益になりました。



経常利益 **387** 億円

前年度より252億円減少

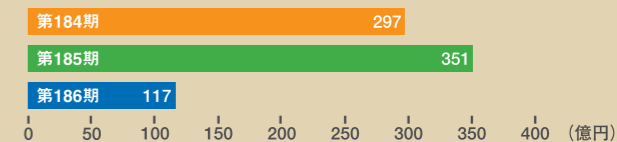
為替予約などのヘッジ効果により、営業外損益が好転したことから、営業利益よりも減少幅が少なくなっています。



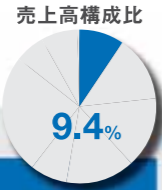
当期純利益 **117** 億円

前年度より234億円減少

訴訟損失引当金繰入額51億円、退職給付信託設定損44億円などの特別損失を計上しました。

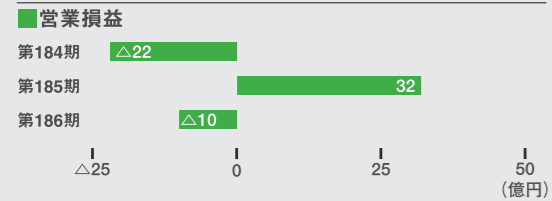
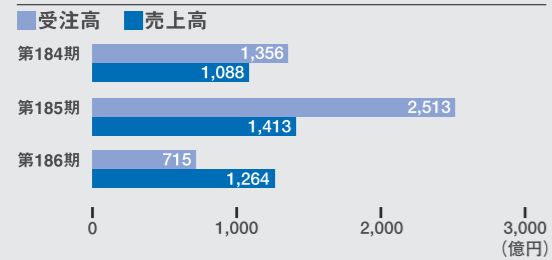


船舶事業



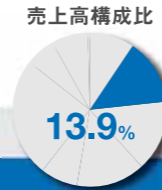
大型船の売上減少などにより減益

売上高は、大型船の売上が減少したことなどにより、1,264億円と前年度を下回りました。営業損益は、売上高の減少および資材費高騰・円高ドル安の影響により、前年度から42億円減少し、10億円の損失となりました。



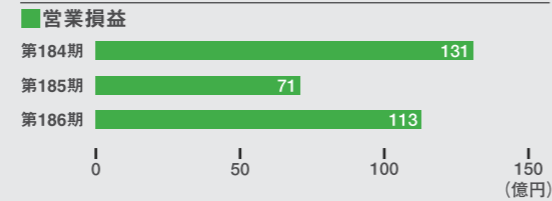
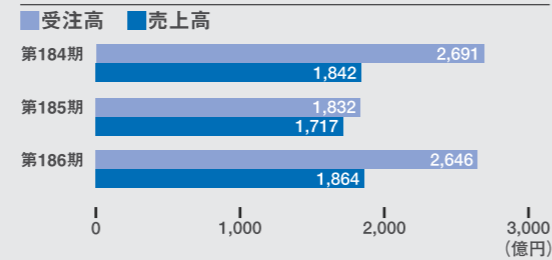
LNG運搬船「エネルギーナビゲーター」 潜水艦「うりりゅう」

車両事業



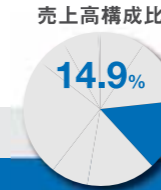
海外向けの売上が増加

売上高は、建設機械の売上が減少したものの、海外向け鉄道車両の売上が増加したため、1,864億円と前年度を上回りました。営業利益は、売上高の増加に伴い前年度から41億円増加し、113億円となりました。



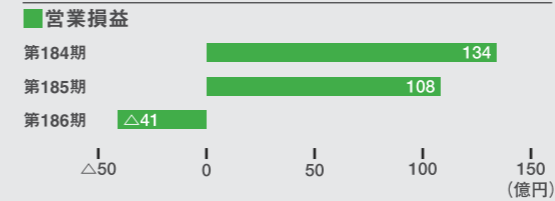
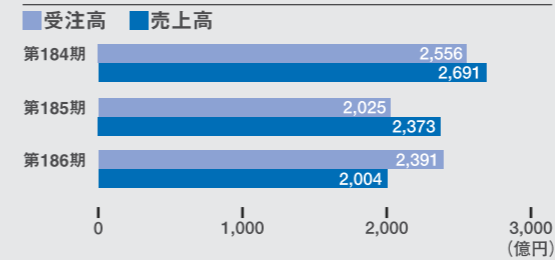
E3系2000番代新幹線電車 ホイールローダ(135ZV-2)

航空宇宙事業



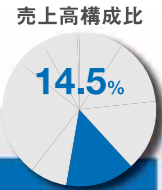
円高とコスト増により減収減益

売上高は、防衛省向け売上の減少およびボーイング社向けB777旅客機分担製造品の売上の減少に加え、為替レートが円高ドル安で推移したことなどにより、2,004億円と前年度を下回りました。営業損益は、売上高の減少に加え、棚卸資産評価損などのコスト増により、前年度から150億円減少し、41億円の損失となりました。



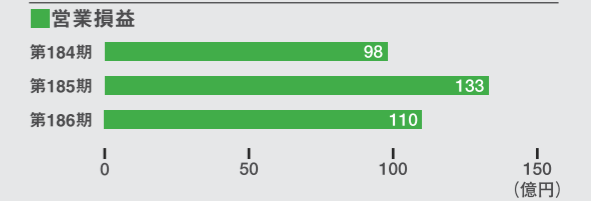
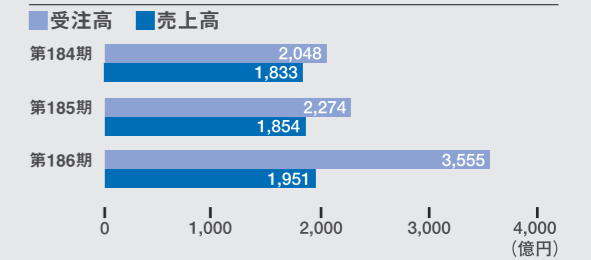
次期固定翼哨戒機(XP-1) 川崎式BK117C-2型ヘリコプタ

ガスタービン・機械事業



船用ディーゼル主機関が好調も減益

売上高は、船用ディーゼル主機関の売上増などにより、1,951億円と前年度を上回りました。営業利益は、売上高の増加があったものの、円高の影響を受けたほか、棚卸資産評価損の計上などにより、前年度から23億円減少し、110億円となりました。



韓国 光明地区集団エネルギー供給事業向けガスタービン (GPB180D) 旋回式スラスタ「レックスベラ®」

※「レックスベラ」:川崎重工の登録商標です。

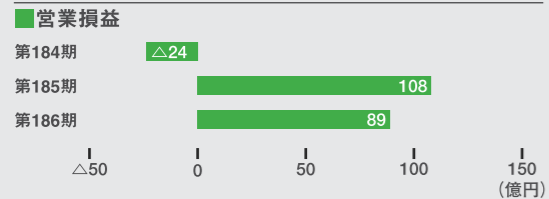
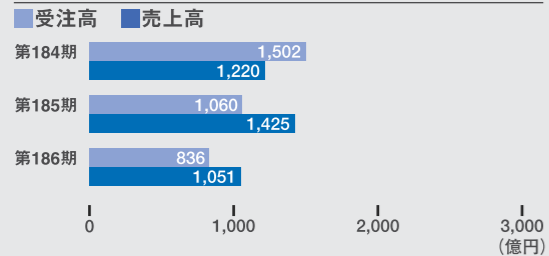
売上高構成比



プラント・環境事業

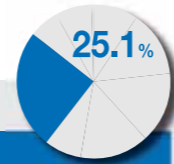
大型案件の減少などにより減収・減益

売上高は、海外向け非鉄精錬プラントの売上が増加したものの、都市ごみ焼却施設の売上が減少したことなどにより、1,051億円と前年度を下回りました。営業利益は、売上高の減少に伴い、前年度から18億円減少し、89億円となりました。



韓国SNNG (Societe Nickel Nouvel Caledonie) 向けフェロニッケル製造設備
日本製紙ケミカル江津事業所向け微分炭焚ボイラ

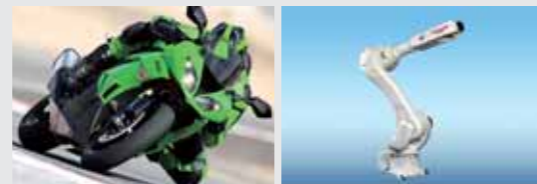
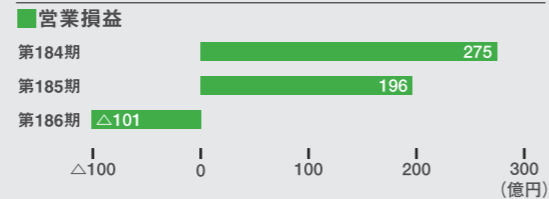
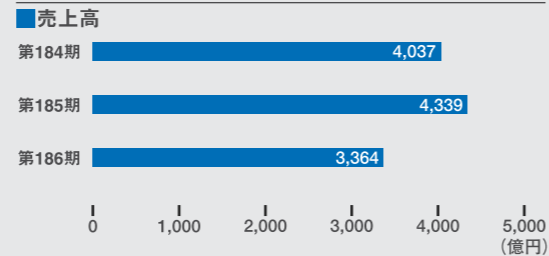
売上高構成比



汎用機事業

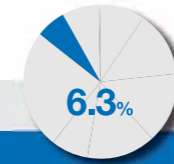
大型車の販売不振と円高により減益

売上高は、アジア向け二輪車の販売は増加したものの、欧米向け二輪車の販売が減少し、ロボットの販売も減少しました。また、ドル・ユーロに対する為替レートの円高が進行したことなどにより、3,364億円と前年度を下回りました。営業損益は、売上高の減少、特に大型車の販売不振の影響により前年度から298億円減少し、101億円の損失となりました。



スーパースポーツ「Ninja ZX-6R」
小・中型マニピュレータ RS20N

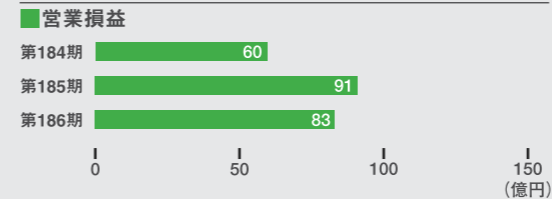
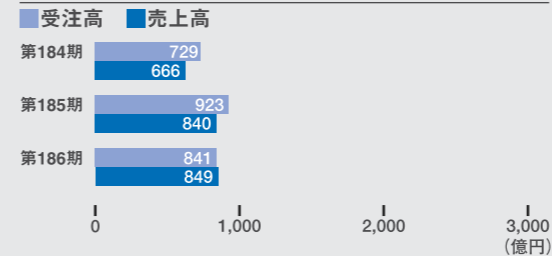
売上高構成比



油圧機器事業

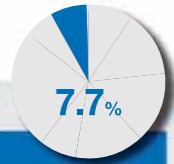
売上横ばいも減益

売上高は、建設機械向けが前半6ヶ月に高水準で推移したことなどから、849億円と前年度を上回りました。営業利益は、前年度から7億円減少し、83億円となりました。



各種油圧機器 (ポンプ、モータ、バルブなど)

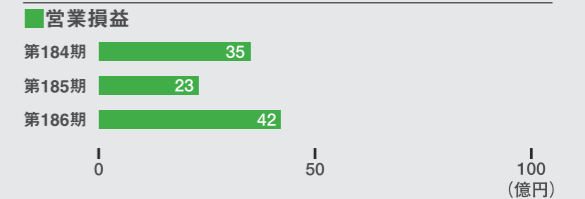
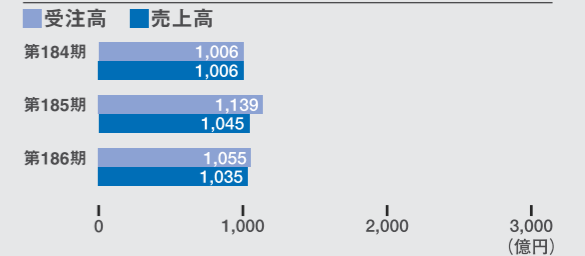
売上高構成比



その他事業

(商業、ビル・福利施設の管理など)

売上高は1,035億円と前年度を下回りました。営業利益は、前年度から19億円増加し42億円となりました。

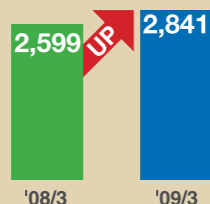


神戸クリスタルタワー

Point

Point 1 有形固定資産

有形固定資産とは、会社が長期にわたって使用する資産で、主に建物や設備、土地などの目に見えるものを指します。当期も引き続き、積極的な設備投資により、有形固定資産が増加しました。



【主な新規案件】

播磨工場内で当期操業を開始した新工場「スラスタ第1工場」は、生産スペース拡充および生産効率向上による川崎サイドスラスタ（船用推進機の一つ）の増産を目的として、神戸工場から生産拠点を移転したものです。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度末 平成21年3月31日現在	前連結会計年度末 平成20年3月31日現在
資産の部		
流動資産	995,796	982,282
固定資産	403,974	396,487
有形固定資産	284,117	259,927
無形固定資産	19,573	16,053
投資その他の資産	100,283	120,506
資産合計	1,399,770	1,378,769
負債の部		
流動負債	830,006	824,541
固定負債	274,518	235,190
負債合計	1,104,525	1,059,732
純資産の部		
株主資本	312,415	309,560
資本金	104,328	104,328
資本剰余金	54,281	54,290
利益剰余金	154,272	151,401
自己株式	△467	△459
評価・換算差額等	△21,974	3,631
その他有価証券 評価差額金	3,139	10,292
繰延ヘッジ損益	△263	5,217
為替換算調整勘定	△24,850	△11,878
少数株主持分	4,804	5,845
純資産合計	295,245	319,037
負債純資産合計	1,399,770	1,378,769

連結キャッシュ・フロー計算書 (概要)

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	前連結会計年度 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△41,256	75,765
投資活動によるキャッシュ・フロー	△72,283	△49,090
財務活動によるキャッシュ・フロー	107,692	△27,391
現金及び現金同等物の期末残高	31,413	38,169

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	前連結会計年度 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
売上高	1,338,597	1,501,097
売上原価	1,146,944	1,262,032
売上総利益	191,652	239,064
販売費及び一般管理費	162,939	162,154
営業利益	28,713	76,910
営業外収益	27,838	17,845
営業外費用	17,832	30,783
経常利益	38,718	63,972
特別利益	594	1,668
特別損失	15,688	7,585
税金等調整前当期純利益	23,625	58,055
法人税、住民税及び事業税	16,783	23,270
法人税等調整額	△6,021	△1,260
少数株主利益	1,135	903
当期純利益	11,727	35,141

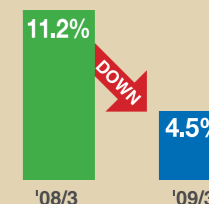
連結株主資本等変動計算書 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで) (単位：百万円)

科目	株主 資本合計	評価・換算 差額等合計	少数 株主持分	純資産 合計
平成20年3月31日残高	309,560	3,631	5,845	319,037
当連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当	△8,341	-	-	△8,341
当期純利益	11,727	-	-	11,727
自己株式の取得	△31	-	-	△31
自己株式の処分	14	-	-	14
その他	△514	-	-	△514
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額(純額)		△25,606	△1,040	△26,646
当連結会計年度中の変動額合計	2,854	△25,606	△1,040	△23,792
平成21年3月31日残高	312,415	△21,974	4,804	295,245

Point

Point 2 投下資本利益率 (ROIC)

目標とする経営指標は、投資家の皆様の期待に応える利益を稼得することを目的として、資本効率を測る指標である投下資本利益率 (ROIC) を採用しています。



※ROIC=(税引前利益+支払利息)÷投下資本

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けに、さらに詳しい財務関連情報を掲載しております。また、企業情報や環境への取り組みなど幅広い内容となっておりますので、ぜひご覧ください。



<http://www.khi.co.jp>

単独財務諸表

科目	当会計年度末 平成21年3月31日現在	前会計年度末 平成20年3月31日現在
資産の部		
流動資産	652,956	612,879
固定資産	325,031	310,082
有形固定資産	155,389	133,869
無形固定資産	13,758	11,256
投資その他の資産	155,883	164,956
資産合計	977,988	922,962
負債の部		
流動負債	546,455	508,229
固定負債	200,732	159,366
負債合計	747,188	667,596
純資産の部		
株主資本	226,277	240,745
資本金	104,328	104,328
資本剰余金	52,098	52,107
利益剰余金	70,318	84,769
自己株式	△467	△459
評価・換算差額等	4,522	14,620
その他有価証券 評価差額金	2,872	9,237
繰延ヘッジ損益	1,649	5,383
純資産合計	230,799	255,366
負債純資産合計	977,988	922,962

科目	当会計年度 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	前会計年度 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
売上高	771,428	889,963
売上原価	718,187	784,062
売上総利益	53,241	105,900
販売費及び一般管理費	65,302	62,847
営業利益又は営業損失	△12,061	43,053
営業外収益	25,534	9,051
営業外費用	10,859	20,399
経常利益	2,614	31,705
特別利益	—	3,088
特別損失	15,716	6,294
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失	△13,102	28,499
法人税、住民税及び事業税	2,030	8,743
法人税等調整額	△9,023	△1,066
当期純利益又は当期純損失	△6,109	20,822

科目	株主資本合計	評価・換算 差額等合計	純資産合計
平成20年3月31日残高	240,745	14,620	255,366
当会計年度中の変動額			
剰余金の配当	△8,341	—	△8,341
当期純損失	△6,109	—	△6,109
自己株式の取得	△31	—	△31
自己株式の処分	14	—	14
株主資本以外の項目の 当会計年度中の変動額(純額)	—	△10,098	△10,098
当会計年度中の変動額合計	△14,468	△10,098	△24,566
平成21年3月31日残高	226,277	4,522	230,799

会社概要・役員 株式の状況・大株主

創立	明治29年10月15日
資本金	104,328,628,664円
従業員	10,901名
本社	(神戸) 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 (東京) 東京都港区浜松町2丁目4番1号

発行可能株式総数	3,360,000,000株
発行済株式総数	1,669,629,122株
株主総数	171,908名

取締役会長	大橋 忠晴	執行役員	菅原 健史
取締役社長	長谷川 聰		上田 澄広
取締役副社長	三原 修二		金森 渉
	瀬川 雅司		渡邊 武史
常務取締役	元山 近思		村田 泰男
	高尾 光俊		牧村 実
	浅野 雄一		宮武 環
	神林 伸光		山中 秀一
	松岡 京平		広畑 昌彦
	高田 廣		田中 信介
監査役	岡崎 信行		下村 豊
	大串 辰義		山口 雅敏
	土井 憲三		世良 直己
	岡 道生		井城 譲治
常務執行役員	村山 滋		橋本 芳純
執行役員	服部 晃		早野 幸雄
	山口 徹		衣斐 正宏
	木野内 総介		芝原 貴文
	山下 清司		金花 芳則

株主名	所有株式数	比率
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4G)	97,554,000株	5.84%
株式会社みずほ銀行	57,443,650株	3.44%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	56,503,000株	3.38%
JFEスチール株式会社	56,174,400株	3.36%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	54,552,000株	3.26%
日本生命保険相互会社	54,016,659株	3.23%
東京海上日動火災保険株式会社	46,397,589株	2.77%
川崎重工業従業員持株会	31,728,296株	1.90%
川崎重工共栄会	30,788,192株	1.84%
日本興亜損害保険株式会社	27,521,999株	1.64%

今回の表紙

今回のビジネスレポートでは「宇宙から見る、地球の川崎重工」を取り上げ、表紙もGoogleより広島ガス株式会社殿廿日市工場の宇宙からの衛星写真を転載しました。大きな二つの円形のは、環境に優しいクリーンなエネルギーLNG(液化天然ガス)を貯蔵する大型タンクです。川崎重工は地球の未来を担い、LNG技術の発展に大きく貢献しています。



切り取ってご利用ください。

川崎重工業株式会社

ご来場の際は本券を切り離してご持参ください。

ご利用日	年	月	日
ご利用内訳	大人	名	小人 名

見本

楽しく体験!陸・海・空のテクノロジーワールド

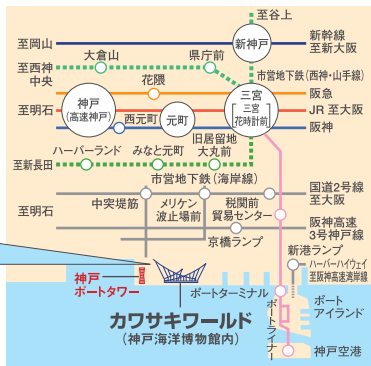
カワサキワールド

Kawasaki GoodTimes World

船舶、鉄道車両、航空機、モーターサイクル…神戸に生まれ、日本に、そして世界に最新のテクノロジーを送り出す川崎重工グループ。陸・海・空の各分野で活躍する、そのテクノロジーの歴史、現在、そして未来を、ぜひ、カワサキワールドで感じてみてください。

所在地 〒650-0042 兵庫県神戸市中央区波止場町2番2号
開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日に休館) 年末年始(12月29日から1月3日)
お問合せ TEL.078-327-5401 FAX.078-327-5402
<http://www.khi.co.jp/kawasakiworld/>

交通案内



- 飛行機で
「神戸空港」からタクシーで約20分
- 新幹線で
「新神戸駅」からタクシーで約15分
- 電車で
市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から徒歩約10分
JR・阪神「元町駅」から徒歩約15分
神戸高速(阪急・山陽)「花隈駅」から徒歩約15分

- シティーブで
「地下鉄三宮駅前(南行)」乗車約15分
「中突堤(ポートタワー前)」下車徒歩1分
- 車・タクシーで
JR・阪神・阪急「三宮駅」から約10分
JR・阪神「元町駅」から約5分
阪神高速道路「京橋ランプ」から約5分
ハーバー・ハイウェイ「新港ランプ」から約5分
※周辺には駐車場(有料)があります。

●神戸海洋博物館入館料 大人 500円 小人(小中学生) 250円

※入館料には、各種割引があります。※カワサキワールドの入場料は、神戸海洋博物館の入館料に含まれています。

切り取ってご利用ください

カワサキワールド

Kawasaki GoodTimes World

株主様ご招待券(3名様無料)

平成22年6月30日まで有効

見本

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 TEL:0120-78-2031 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 証券代行部

ご案内

○「株券電子化」に伴う各種手続きの申請先の変更について

住所や名義の変更手続きについて、従来は中央三井信託銀行へ申請いたしておりましたが、本年1月より、原則として株式を預けられている証券会社に申請いただくこととなりました。必要となる用紙等も証券会社により異なりますので、詳しくは証券会社へお問合せください。なお、特別口座に預けておられる株主様は、従来どおり全てのお手続きは中央三井信託銀行が取り扱います。

○配当金の受け取り方法が増えました!

配当金はこれまで「ゆうちょ銀行の窓口での受け取り」か「金融機関への振込み」によってお受け取りいただいております。今年から、上記の方法に加え、以下の2つの方法でもお受け取りいただけることになりました。ただし、株式をお預けになっている証券会社や振込先に指定しようとお考えの金融機関によっては、新しい方法が利用できない場合もございますので、詳細は証券会社又は中央三井信託銀行へお問合せください。

- 全株式の配当金の同一口座への振込みによる受け取り
(「登録配当金受領口座方式」といいます)
▶株主様が保有する(当社以外の会社の株式を含め)全ての株式について、複数の証券会社に預けていた場合でも、それらにかかる配当金を一つの金融機関口座への振込みにより受け取る方式です。
- 株式の預託口座(証券会社等の口座)への振込みによる受け取り
(「株式数比例配分方式」といいます)
▶株主様が株式を預けている証券会社の口座で配当金を受け取る方式で、同一銘柄の株式を複数の証券会社に分けて預けている場合、配当金もその株式数に応じて分けて受け取るようになります。

○事務のお取扱い(電話お問い合わせ・郵便物送付先)

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部(証券代行事務センター)
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
TEL:0120-78-2031(土日祝日を除く 午前9時～午後5時)

川崎重工業株式会社

TEL:078-371-9533(総務部株式担当)



この報告書は環境に配慮し、VOC(揮発性有機化合物)の発生の少ない大豆インクを使っています。



ミックス品
FSCの認証を受け、責任ある森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. S-COC-2935
© 1996 Forest Stewardship Council